

情報解禁日時:2月22日(木)AM7時

原作:吉村昭「雪の花」 監督:小泉堯史『峠 最後のサムライ』『蝸ノ記』

江戸時代。日本を救った町医者・笠原良策が
いま問いかける[生きる希望]とは。愛と感動の実話を映画化。

「雪の花 ーともに在りてー」

主演:松坂桃李

役所広司 芳根京子



2025年1月24日(金)公開決定!

【映画『雪の花 ーともに在りてー』映画化決定ニュース お取り扱いのお願い】

平素より大変お世話になっております。

吉村昭の原作「雪の花」(新潮文庫刊)が、小泉堯史監督の手により映画化することが決定。主演に松坂桃李、共演に役所広司、芳根京子を迎え、2025年1月24日(金)全国公開することが決定いたしました。

吉村昭が1988年に発表した「雪の花」は、江戸時代末期を舞台に、数年ごとに大流行して多くの人命を奪う天然痘と闘った一人の町医者の実話を描く物語。天然痘の絶対確実な予防法が異国から伝わったと知った福井藩の町医者・笠原良策。京都の蘭方医・日野鼎哉に教えを請い、また私財をなげうち種痘の苗を福井に持ち込みます。良策はかつてない予防法成功の為に様々な困難にも諦めず、妻・千穂の支えの中で流行病と闘い続けます。自らの利益を顧みずに、天然痘に侵された日本を本気で救おうと立ち上がった〈実在の知られざる町医者・笠原良策〉が、いま問いかける「生きる希望」とは。

監督を務めるのは、1970年黒澤プロに参加。『影武者』(80)以降、『乱』(85)、『夢』(90)、『八月の狂詩曲』(91)、『まあだだよ』(93)で助監督を担当。脚本作りから準備、撮影、仕上げまで黒澤明監督に師事、黒澤映画の様々な手法を学び、黒澤監督の遺作脚本『雨あがる』(00)で監督デビューを果たし、『博士の愛した数式』(06)、『蝸ノ記』(14)、『峠 最後のサムライ』(22)といった上質な日本映画を製作し続けている「小泉堯史監督」。

主人公・笠原良策を演じるのは、映画『孤狼の血』(18)で、第42回日本アカデミー賞最優秀助演男優賞、映画『新聞記者』(19)で第43回日本アカデミー賞最優秀主演男優賞を受賞。2023年はNetflix「離婚しようよ」、TBS系ドラマ「VIVANT」、映画『ゆとりですがなにか インターナショナル』に出演し、日本を代表する俳優へのキャリアを着実に積み重ねる「松坂桃李」。映画『真田十勇士』(16)、映画『居眠り磐音』(19)以来の時代劇に挑戦します。

京都の蘭方医・日野鼎哉(ひのていさい)を演じるのは、近年映画『孤狼の血』(18)で第42回日本アカデミー賞最優秀主演男優賞、映画『すばらしき世界』(20)では、第56回シカゴ国際映画祭最優秀演技賞、第95回キネマ旬報ベスト・テン 主演男優賞を受賞し、ヴィム・ヴェンダース監督の映画『PERFECT DAYS』では第76回カンヌ国際映画祭最優秀男優賞、第97回キネマ旬報ベスト・テン主演男優賞を受賞し、さらに名実ともに日本を代表する俳優の一人として活躍を続ける「役所広司」。小泉監督とは『峠 最後のサムライ』以来のタッグとなり、松坂氏とは映画『日本のいちばん長い日』(15)、『孤狼の血』(18)、NHK大河ドラマ「いだてん～東京オリムピック噺～」(19)、TBS日曜劇場「VIVANT」(23)と5度目の共演となります。

良策の妻・笠原千穂を演じるのは、2013年の女優デビュー。映画『累ーかさねー』(19)、『散り椿』(19)で第42回日本アカデミー賞新人俳優賞を受賞。映画『カラオケ行こ!』(24)での好演も記憶に新しい「芳根京子」。松坂氏とは『居眠り磐音』以来2度目の共演となります。

これまで、数多くの歴史の影に隠れた心魅かれる人物たちを描いてきた小泉堯史監督。黒澤明監督のDNAを受け継いだ小泉監督にしか描けない、一人の男の無私な精神は、現代を生きる日本人へのメッセージとして深い感動を届けてくれます。

映画『雪の花 一ともに在りて一』は2025年1月24日(金)全国公開。続報にご期待ください。

映画『雪の花 一ともに在りて一』情報解禁概要

◆情報解禁日時:2月22日(木)AM7:00解禁

◆解禁素材

・松坂桃李さん、役所広司さん、芳根京子さん アーティスト写真組画1点

・松坂桃李さん、役所広司さん、芳根京子さん コメント

・『雪の花』書影データ ※ご使用いただく際は必ず【吉村昭『雪の花』(新潮文庫刊)】をご記載ください

・コメント・プロフィール

松坂桃李／笠原良策 役

【プロフィール】

1988年生まれ、神奈川県出身。A型。テレビ朝日系特撮「侍戦隊シンケンジャー」(09)で俳優デビュー。『ツナグ』(12)で第36回日本アカデミー賞新人俳優賞。『孤狼の血』シリーズ(18,21)で第42回日本アカデミー賞最優秀助演男優賞をはじめ、各映画賞を受賞。最近の出演作として、ドラマ「離婚しようよ」『VIVANT』(23)、映画『流浪の月』(22)『ゆとりですがなにか インターナショナル』(23)がある。日本の俳優を代表する若き実力派俳優。

【コメント】

非常に身が引き締まる思いです。時代劇に参加するのは『居眠り磐音』以来。約5、6年の時間が経っていますが、小泉堯史監督のもとで 演じさせてもらえるということが、僕にとっては非常に光栄でした。そして、今回、再共演となる役所広司さんはじめ、素敵なキャストの方々と共演させてもらったのは何より心強かったです。わからないもの程怖いものはない、そんな未知の病と戦った一人の町医者が繋いだ希望。懸命に命と向き合う笠原良策の姿を『雪の花』という作品を通して観ていただきたいです。

役所広司／日野鼎哉 役(ひのていさい)

【プロフィール】

1956年生まれ、長崎県出身。数々の受賞歴、世界で活躍+国際的にも高い評価を受ける日本を代表する俳優。『KAMIKAZE TAXI』(95)、『Shall we ダンス?』(96)、『うなぎ』(97)、『CURE』(97)、『ユリイカ』(01)、『SAYURI』(05)、『BABEL』(06)、『キツツキと雨』(12)、『渇き。』(14)、『孤狼の血』(18)、『すばらしき世界』(20)、『峠 最後のサムライ』(22)。『PERFECT DAYS』(23)では、第76回カンヌ国際映画祭最優秀男優賞。

【コメント】

小泉監督の作品にはどんな形でも参加したいと思っていたので、声をかけていただき是非参加させてほしいとお答えしました。松坂くんとは何度かご一緒していますが、良策という役は本当に心の澄み切った青年で、松坂くんにぴったりだと思いました。今の時代があるのも、色々な人たちが命をかけて頑張った結果なのだろうと、そんな想いをこの映画を通して感じていただきたいです。

芳根京子／笠原千穂 役

【プロフィール】

フジテレビ系ドラマ「ラスト♡シンデレラ」(13)で女優デビュー。
NHK 連続テレビ小説「花子とアン」(14)、TBS系ドラマ「表参道高校合唱部！」(15)でドラマ初主演を務める。NHK 連続テレビ小説「べっぴんさん」でヒロイン坂東すみれ役を務める。
19年 映画『累ーかさねー』、『散り椿』で第42回日本アカデミー賞新人俳優賞を受賞。

【コメント】

小泉堯史組に参加するのは2回目だったのですが、千穂という素晴らしい役に呼んでいただけてとても光栄でした。と同時に、自分に務まるのかすごく不安でしたが、小泉監督から優しさと強さを大切にしてほしいと導いていただきました。今回は殺陣や太鼓、調薬など撮影前から毎日必死に役作りを準備してきましたが、時間をかけた分より丁寧に演じられたと思います。

松坂桃李さん演じる良策とも素敵な時間を積み重ねることができました。

こういった歴史があるから今があるということを是非感じていただきたいです。

小泉堯史監督

【プロフィール】

1944年茨城県生まれ。

東京写真短期大学(現・東京工芸大学)写真技術科、早稲田大学卒業。早大卒業後の1970年黒澤プロに参加。『影武者』(80)以降、『乱』(85)、『夢』(90)、『八月の狂詩曲』(91)、『まあだだよ』(93)で助監督を担当。脚本作りから準備、撮影、仕上げまで黒澤明監督に師事、黒澤映画の様々な手法を学ぶ。黒澤監督の遺作脚本『雨あがる』(00)を初監督。その後も黒澤監督の意志を受け継ぎ『阿弥陀堂だより』(02 監督/脚本)、『博士の愛した数式』(06)、『明日への遺言』(08)、『蝸ノ記』(14 監督/脚本)、『散り椿』(18 脚本)、『峠 最後のサムライ』(22 監督/脚本)上質な日本映画を製作し続けている。

【コメント】

映画監督として、歴史の上で出合った実在の人物は、『明日への遺言』の陸軍中将・岡田資。『峠 最後のサムライ』の長岡藩家老・河井継之助。そして、この度の『雪の花』福井藩町医者・笠原良策。いづれも、己を無に帰し、事に当たった男達。

小林秀雄さんは『無私の精神』で、次のように書いています。

「実行家として成功する人は、自己を押し通す人、強く自己を主張する人と見られがちだが、実は反対に、彼には一種の無私がある。空想は孤独でも出来るが、実行は社会的なものである。有能な実行家は、いつも自己主張より物の動きの方を尊重しているものだ。現実の新しい動きが看破されれば、直ちに古い解釈や知識を捨てる用意のある人だ。物の動きに順じて自己を日に新たにするとはい一種の無私である」と。

江戸末期、福井に生きた町医者・笠原良策に、無私の美しい精神を感じます。努力を積み重ね、勇気を持ち、己を捨てて誠実に働く良策の姿は、永遠に価値ある歴史を生み、現在に生きる私達の心に、強く働き懸けてくれます。歴史は、決して進歩するものではありません。歴史は自然と共に、いつも同じものと戦っているのです。

今や、品位を敢えて失わせようとする文化が、消費と手を結び、勝手気ままに振る舞っています。それによって破壊されるのは、道義的な美しさです。言葉や行ないの立派さは、美しさがあればこそ、時の移り変わりに、耐えることが出来ると謂います。

良策との出会いは、歴史を鑑とし、少しでも良きものになれるかもしれないと、私達に希望や勇気を示し、道を清々しく照らしてくれるのでは、と思っています。

・作品概要

作品名:『雪の花 一ともに在りて一』

※「花」と「一」の間は全角アケ、「一」は全角

監督:小泉堯史

原作:吉村昭「雪の花」(新潮文庫刊)

出演:松坂桃李 芳根京子 役所広司

©2025映画「雪の花」製作委員会



吉村昭『雪の花』(新潮文庫刊)

2025年1月24日(金)全国公開

宣伝問い合わせ:株式会社マンハッタンピープル

深澤(090-9134-7563)／原(070-5088-4464)